

第2節 脳卒中

本県の脳血管疾患による死亡者数は、平成22年には6,758人と平成17年の6,937人より減少傾向にあるものの、死亡原因の第3位となっています。

脳卒中における急性期治療からリハビリテーション、在宅医療に至る医療提供体制の構築が必要です。

県民が健康で元気に生活できる期間（健康寿命）を延ばし、誰もがいきいきと自分らしい生活を送れることを目指し、県民健康づくり運動を推進していきます。

1 現状

県民健康づくり運動「かながわ健康プラン21（改定計画）」では、健康的な生活習慣の実践ができ、健康づくりや生活習慣病の予防を図るよう「かながわ健康づくり10か条」として県民に提唱してきました。

脳卒中の治療は、かつて急性期治療から回復期リハビリテーションまで一貫して専門病院で行うのが主流でしたが、現在では急性期と回復期の病院間で役割分担し、地域の中で連携して対応する体制が定着してきています。

平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査によると、神経内科医師数の人口10万人当たりの数は、湘南西部二次保健医療圏で5.7人と一番多く、次いで横浜南部の4.3人、川崎北部の4.0人の順です。

また、脳神経外科医師の人口10万人当たりの数も、湘南西部二次保健医療圏で5.9人と一番多く、次いで横浜南部の5.5人、川崎南部の5.3人の順です。

脳卒中の専用病室（SCU：Stroke Care Unit）を有する病院数は、平成23年医療施設調査によると、横浜市内、川崎市内を中心に12病院あり、都市部に偏っている傾向があります。

脳卒中の退院患者平均在院日数は、平成23年患者調査によると、全国平均が97.4日であるのに対し、本県の平均は81.6日と15.8日短くなっています。

急性期における地域連携クリティカルパスの作成件数（平成22年10月～平成23年3月の6か月間）は、レセプト情報・特定健診等情報データベース（ナショナルデータベース：NDB）によると、全国13,799件中、本県は727件あり、全国の約5%を占めています。

	横浜 北部	横浜 西部	横浜 南部	川崎 北部	川崎 南部	相模 原	機籾・ 三浦	湘南 東部	湘南 西部	県央	県西	県計・ 平均	全国 合計
神経内科 医師数	2.5	2.4	4.3	4.0	2.4	3.6	1.6	2.3	5.7	0.7	3.3	2.9	3.3
脳神経外科 医師数	4.1	4.6	5.5	4.0	5.3	4.4	3.8	3.3	5.9	3.3	3.9	4.4	5.3
SCUを有する 病院数	2	2	2	1	3	0	0	0	1	1	0	12	113
平均在院日 数	71.2	85.5	51.2	164.6	32.9	133.4	44.6	97.8	113.3	92.6	98.9	81.6	97.4

人口10万対の人数

2 課題

(1) 予防

「かながわ健康プラン21（改定計画）」の最終評価では、脳卒中の危険因子である高血圧に関連する男性の肥満、多量飲酒の改善が見られませんでした。

改善傾向がみられたものの目標に達していない運動の習慣化、喫煙防止についても生活習慣病の予防のため、今後も啓発等を推進していくことが必要です。

(2) 医療

ア 急性期の医療

脳卒中は迅速な診断、治療が重要であり、脳梗塞に対するt-PA（tissue-type plasminogen activator）による治療法（脳血栓溶解療法。脳の動脈をふさいでいるものをt-PAという薬で溶かす治療方法）は、発症後4.5時間以内に開始することが必要です。

近年の治療法のめざましい進歩により、血栓を回収する新たなカテーテル治療法も行われており、早期に治療を開始するほど良好な回復経過が期待できることから、脳卒中に対応する救急医療体制の充実が必要です。

イ 急性期後の医療

脳卒中は、急性期死亡を免れても麻痺等の後遺症を残すことが多く、要介護の主要な原因となっていることから、後遺症軽減に向け、早期にリハビリテーションを開始することが必要です。

脳血管障害の後遺症として、口腔機能が著しく低下する場合もあるため、早期に摂食・嚥下リハビリテーションや口腔ケアを行うことが必要です。

ウ 医療機能の情報提供及び連携の推進

脳卒中の治療に対応できる医療機関について、わかりやすい情報提供に努め、連携を推進することが必要です。

地域医療連携の推進に有効な脳卒中地域連携クリティカルパス（診療計画表）は、急性期と回復期の病院間で広がってきていますが、診療所や介護施設まではあまり普及していません。

3 施策

(1) 予防（県、市町村、関係団体、県民）

「かながわ健康プラン21（第2次）」の推進のために、関連団体やマスメディア、県や市町村等からなる「かながわ健康寿命日本一推進会議（仮称）」を設置し、取組みを検討するなど健康づくりを推進していきます。

(2) 医療（県、市町村、医療関係団体、医療提供者、介護事業者）

ア 病院前救護体制及び急性期医療

医療機関と消防機関との連携による病院前救護体制の充実に努めます。

脳卒中集中治療室（SCU）を備えるなど、急性期に対応できる医療機関を中心に急性期医療の充実に努めます。

イ 急性期後の医療

脳血管障害の後遺症による口腔機能の低下を防止するため、摂食・嚥下（えんげ）リハビリテーションや口腔ケアを推進します。

在宅医療を提供する機関等の連携拠点の整備を行い、多職種協働による在宅

医療の支援体制を構築し、脳卒中における在宅医療体制の充実を図ります。

ウ 医療機能の情報提供及び連携の推進

脳卒中治療に対応できる医療機関とその機能について、わかりやすい情報提供を行い、連携の推進を図ります。

急性期や回復期の病院に加え、在宅医療を担う診療所や介護施設等における脳卒中地域連携クリティカルパスの普及を図ります。

パスの効果的・効率的な運用を図るため、パスのICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）化を検討します。

地域連携クリティカルパスを活用し、急性期治療からリハビリテーション、在宅医療に至る治療過程を患者にわかりやすく説明するよう努めます。

4 目標

目標項目		現状 (平成22年度)	目標値 (平成29年度)
脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法実施件数		286件 (1)	350件 (2)
地域連携クリティカルパスに基づく診療計画作成等の実施件数		870件 (1)	1,380件 (2)
特定健康診査の実施率		40.3%	70%以上
脳血管疾患 年齢調整死亡率（人口10万対）	男性	45.6	38.0 (平成34年度)
	女性	26.0	23.8 (平成34年度)

1 平成22年10月から平成23年3月までの6か月間の件数

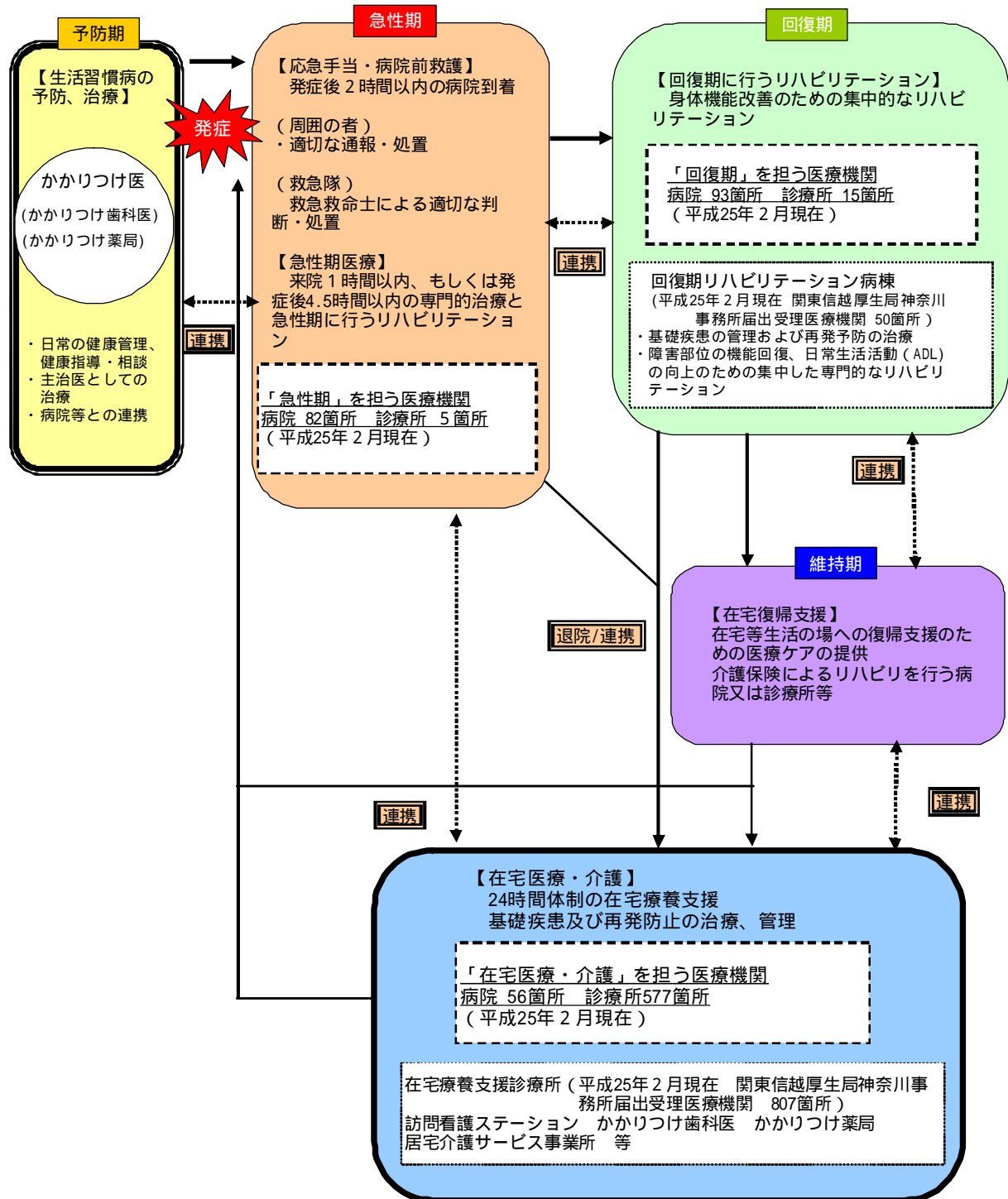
2 平成29年度中の6か月間の件数

用語解説

脳卒中地域連携クリティカルパス

医療連携方法の一つであり、脳卒中治療において急性期病院から回復期病院を経て自宅に戻るまでの診療計画を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるもの。

【脳卒中の医療機能の連携体制】



* 連携体制とその機能を担う医療機関を、次の「神奈川県保健医療計画医療機関情報」のホームページに掲載しています。
 HPアドレス <http://www.iryu-kensaku.jp/kanagawa/renkei/topmenu.aspx>
 脳卒中 <http://www.iryu-kensaku.jp/kanagawa/renkei/IPRenkei.aspx?r=05>

[参 考]

脳卒中の診療状況（病院）

神奈川県医療機能調査（平成24年2月）の結果では、回答があった226病院（病院調査票回収率：65.5%）のうち、受入可能な「脳卒中患者の状態」は、県全体で「急性期」は28.3%、「回復期」が26.1%、「維持期」が31.9%でした。

二次保健医療圏	回答のあった病院数	急性期		回復期		維持期	
		病院数	%	病院数	%	病院数	%
県全体	226	64	28.3	59	26.1	72	31.9
横浜北部	25	4	16.0	6	24.0	8	32.0
横浜西部	28	8	28.6	6	21.4	7	25.0
横浜南部	21	9	42.9	7	33.3	8	38.1
川崎北部	14	4	28.6	2	14.3	3	21.4
川崎南部	15	8	53.3	6	40.0	4	26.7
相模原	28	6	21.4	8	28.6	11	39.3
横須賀・三浦	21	4	19.0	5	23.8	9	42.9
湘南東部	15	5	33.3	4	26.7	6	40.0
湘南西部	16	5	31.3	3	18.8	3	18.8
県央	24	7	29.2	6	25.0	7	29.2
県西	19	4	21.1	6	31.6	6	31.6

脳卒中の維持期患者への対応（診療所）

神奈川県医療機能調査（平成24年2月）の結果では、回答があった3,324診療所（診療所調査票回収率：57.9%）のうち、県全体では、維持期患者に対する診療が「実施できる」と回答した診療所は19.0%、リハビリテーションが「実施できる」と回答した診療所は4.1%でした。

二次保健医療圏	回答のあった診療所数	維持期の診療				維持期のリハビリテーション			
		可		不可		可		不可	
		診療所数	%	診療所数	%	診療所数	%	診療所数	%
県全体	3,324	633	19.0	2,147	64.6	135	4.1	2,655	79.9
横浜北部	652	112	17.2	435	66.7	23	3.5	524	80.4
横浜西部	381	66	17.3	240	63.0	11	2.9	299	78.5
横浜南部	460	79	17.2	306	66.5	21	4.6	365	79.3
川崎北部	232	47	20.3	154	66.4	9	3.9	193	83.2
川崎南部	203	37	18.2	127	62.6	9	4.4	154	75.9
相模原	213	45	21.1	142	66.7	6	2.8	180	84.5
横須賀・三浦	282	64	22.7	162	57.4	14	5.0	215	76.2
湘南東部	276	72	26.1	160	58.0	15	5.4	217	78.6
湘南西部	206	33	16.0	149	72.3	8	3.9	175	85.0
県央	273	46	16.8	179	65.6	10	3.7	216	79.1
県西	146	32	21.9	93	63.7	9	6.2	117	80.1